連載◯土砂災害の解消を目指して

災害から学んだこと

■ 松　嶋　盛　人*■

◯みやま市の概要

みやま市は，福岡県の南部に位置し，東部には山々が連なり，西部には広大な低地が広がり，有明海にも面している，総面積105.21㎢の自然豊かな農業のまちです。

本市は，2007年１月29日に旧山門郡瀬高町，山川町，三池郡高田町が合併して誕生し，現在は人口約3.4万人の市です。

また，JR 鹿児島本線，西鉄大牟田線および九州新幹線の鉄道網に加え，九州自動車道みやま柳川 IC を有しており，福岡市，熊本市へ45分圏内と交通の利便性が良いのが特徴です。（写真－１～３）

◯みやま市の気候

本市は北を背振山地，耳納山地，東を九州山地から連なる筑肥山地，西を有明海に囲まれた筑後平野に位置しており，一年を通して寒暖の差が比較的大きいという内陸型の気候となっています。

年間の平均降水量は約1,900㎜と全国平均より１割程度多く雨が降りますが，特に東シナ海から暖かく湿った空気が入り，長崎県付近で上昇し積乱雲となり，本市のある筑後平野から東の山手の方向に向かって雨を降らす梅雨時期に大雨が降りやすい特徴があります。

また，この気候に水はけの良い南向きの斜面があり，有明海からの潮風を受ける山々があるため温州ミカンの栽培に適した地域としても有名です。

◯豪雨の概要

⑴　気象状況

本市では令和２年７月６日から７日までの２日間での総降雨量375㎜，時間最大雨量66㎜，令和３年８月11日から14日までの４日間での総降雨量956㎜，時間最大雨量44㎜と２年連続で大規模な土砂災害や浸水被害を受けました（写真－４）。

写真－１　有明海

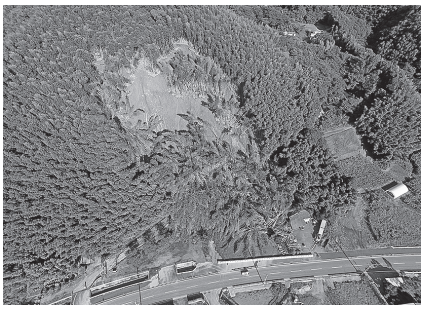
写真－２　みやま市高瀬町大江に伝わる重要無形民俗文化財の幸若舞

写真－３　山川みかん

＊Morito Matsushima　福岡県みやま市長

写真－４　浸水被害

写真－５　道路の冠水



写真－６　土砂災害

写真－７　救助活動

写真－８　道路の崩落

⑵　災害の状況

このような大雨により市内各地で土砂災害をはじめ，道路の冠水等が多数発生し，令和２年７月豪雨では，家屋被害が床上・床下浸水で89棟，公共施設では道路施設や河川施設等の被災が247カ所，令和３年８月大雨では，家屋被害が床上・床下浸水で204棟，公共施設では道路施設や河川施設等の被災が96カ所発生し，長時間通行止めになるなど市民生活に多くの影響が出ました（写真－５～８）。

○災害からの復興

令和２年の大規模災害から今年で丸４年が経過しましたが，昨年度（令和５年度）にようやく２年間分の災害箇所を復旧することができました。中でも復旧を進める上で災害土砂・流木の処分に苦慮しました。大量の水分を含んでいる土砂，破壊された舗装材等が混在する土砂，土砂と一緒に流れてきた倒木・倒竹など通常の土砂処分では引き取ってもらえないものばかりだったのを思い出します。また，これまで経験したことのないような技術や特殊工法での復旧を行うなど困難を極める復旧作業となりましたが，これに携わる職員の貴重な経験となり，災害に対する知識向上に繋がったことは確かです。

○災害対策の組織つくり

⑴　庁内の連携

本市では，これらの大災害を機に防災対策室の設置を始め，関係部署により組織された「みやま市防災・減災庁内連絡会」により各部署での問題提起・連携することで，減災できる取り組みなど

写真－９　意見交換

写真－10　避難訓練

写真－11　講座開催

を共有することができました。また，Web版ハザードマップの構築や，市内で想定される洪水などの浸水想定区域の把握，土砂災害のリスクをスマートフォン等で確認するなど，日ごろから災害に備えるという市民の意識付けに繋がりました。また，現在試行中ではありますが，災害情報を市職員・消防署はもとより・消防団員など一般市民からの情報提供も可能なシステムを構築しております。

⑵　関係機関との連携

河川関係の対策では流域治水関連として先行排水を実施しています。国土交通省・農林水産省それぞれの流域治水の取組内容において，連携を図りながら運用することにより，より効果が発揮される取り組みを目指し，調整を行っております。

⑶　地元との連携

みやま市は山間部・平野部が混在している地形であり，山間部においては土砂災害に対する備えの意見交換，平野部においては冠水地域の自主防災組織等への講座開催・先行排水を実施した場合の効果検証など，それぞれ立場の違う中で情報を共有することにより災害に対する認識を確認できています（写真－９～11）。

また，地域防災力の向上を目指し，地域防災リーダー（防災士）の育成に取り組んでいます。みやま市では現在67名（うち女性10名）の防災士の方々が活躍されています。

○おわりに

令和２年７月豪雨災害及び令和３年８月大雨災害では，国土交通省や福岡県をはじめ各関係機関から多くのご支援とご協力をいただき，災害復旧対策，応急対策を円滑に行うことができましたことに深く感謝を申し上げます。

今後も自然災害はいつ，どこで発生するか分からないため，あらゆる方面から災害への備えが必要であると考えています。これらに適切に対応するためには，自助・共助・公助が一体となった防災対策の継続的な取り組みがより重要性を増しており，個々の対策の積み重ねが，災害に強いまちづくりの礎となります。

今後も，市民の皆さまや各関係機関と協力して，全力で防災対策に取り組んでまいりますので，引き続きご指導ご支援賜りますよう，よろしくお願いいたします。

写真－12　災害時指定避難所である市総合市民センター MIYAMAX